特定非営利活動法人　ほっとポット

20周年記念会報誌

~出会いを振り返って~



祝 特定非営利活動法人

ほっとポット設立20周年

活動を始めたばかりの頃、路上生活を余儀なくされている方々へ、温かい飲み物を入れたポットを持ってお伺いしていました。

誰とでも、どんな時でも、ほっとできる関係を築きたい。それがほっとポットの名前の由来です。

今も、設立した２００６年から変わらない想いを大切に、活動を継続しています。



20th Message

2026年9月。法人21年目を迎えるにあたり、独立型社会福祉士事務所「特定非営利活動法人ほっとポット」を代表して、日頃より当法人の活動を支えてくださっている皆さまに、心より御礼申し上げます。

私たちの活動は、皆さまお一人おひとりのご理解とご支援によって支えられています。社会情勢が大きく変化し、生活の困難を抱える方々を取り巻く環境が厳しさを増すなかにあっても、私たちが現場での実践を続けることができているのは、皆さまの支えがあってこそです。改めて、深い感謝を申し上げます。

○20年の歩み、そして21年目へ

ほっとポットは、2006年10月に特定非営利活動法人として認証を受けました。3人から始まった社会福祉士による実践は、2026年10月をもって法人設立20周年という大きな節目を迎え、21年目へと歩みを進めることとなります。

振り返れば、この20年間は決して平坦な道のりではありませんでした。路上で生活する方との出会いをきっかけに相談につながり、生活に困難を抱える一人ひとりと向き合いながら、命を守り、住まいを確保し、生活の再建につなげる。そして、その背景にある貧困や社会的排除の問題にも目を向ける。私たちは、この実践を20年間続けてきました。20年という時間の重みを感じると同時に、これまで積み重ねてきた実践を21年目へと引き継いでいかなければならないという責任も感じています。

○一人ひとりの生活者の視点から

ほっとポットの活動の根底には、日本国憲法第25条が掲げる生存権保障があります。これは、特別な人だけに与えられるものではなく、人が人として生きるための基本的な生活基盤です。しかしその権利が軽視されるような実態があります。

私たちは、社会福祉専門職による組織として「貧困に陥り、困っている人を支援する」だけではなく、人が一人の人間として尊重され、自らの人生を選択し生きていくことができるよう、ともに考えともに歩むことを大切にします。人は、誰もが尊厳をもって生きることができます。その当たり前のことを具体的に実現していく。それがほっとポットの役割だと考えています。

○平和と福祉を手放さない

戦争や武力侵攻により、人々の命や生活が破壊される現実を目の当たりにする今の時代。私たちは改めて「平和」と「福祉」のつながりを考えなければなりません。

住まいが破壊され、家族が引き離され、尊厳そのものが失われ、命の危機に晒される世界では、人々を守ることはできません。平和を守ることは、社会福祉の理念と深くつながっています。

人間の尊厳を守ること。生きる権利を保障すること。誰も殺さず、誰からも殺されないこと。社会から排除される人を生み出さないこと。そして、誰もが安心して暮らすことのできる世界をつくること。これらを諦めないことが、私たち社会福祉に携わる者の責任です。

○21年目のほっとポットへ

2026年9月をもって、ほっとポットは法人設立20周年を迎え、21年目の活動へ歩みを進めます。

20年間積み重ねてきた実践を大切にしながら、これからもホームレス状態にある方をはじめ、貧困や生活に困難を抱える一人ひとりの声に耳を傾け、生存権保障を現場から実践していきます。そして、生存権保障の入口で誰も排除されることのない社会を目指していきます。

私自身も２代目の代表理事として、その任を一時的に預からせていただいている立場に過ぎません。自らや法人を「無自覚で傲慢なカリスマ・業界の象徴」にせず、ほっとポットを支えてくださる皆さまへの感謝を忘れず、地道に、そして堅実に21年目以降の活動へつなげてまいります。

これから始まる21年目も、皆さまとともに、一人ひとりの命と生活、そして人間の尊厳を守るための実践を積み重ねていきます。

今後とも、ほっとポットの活動へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

共に歩みを続けてまいりましょう。

代表理事
社会福祉士・保護司
宮澤　進



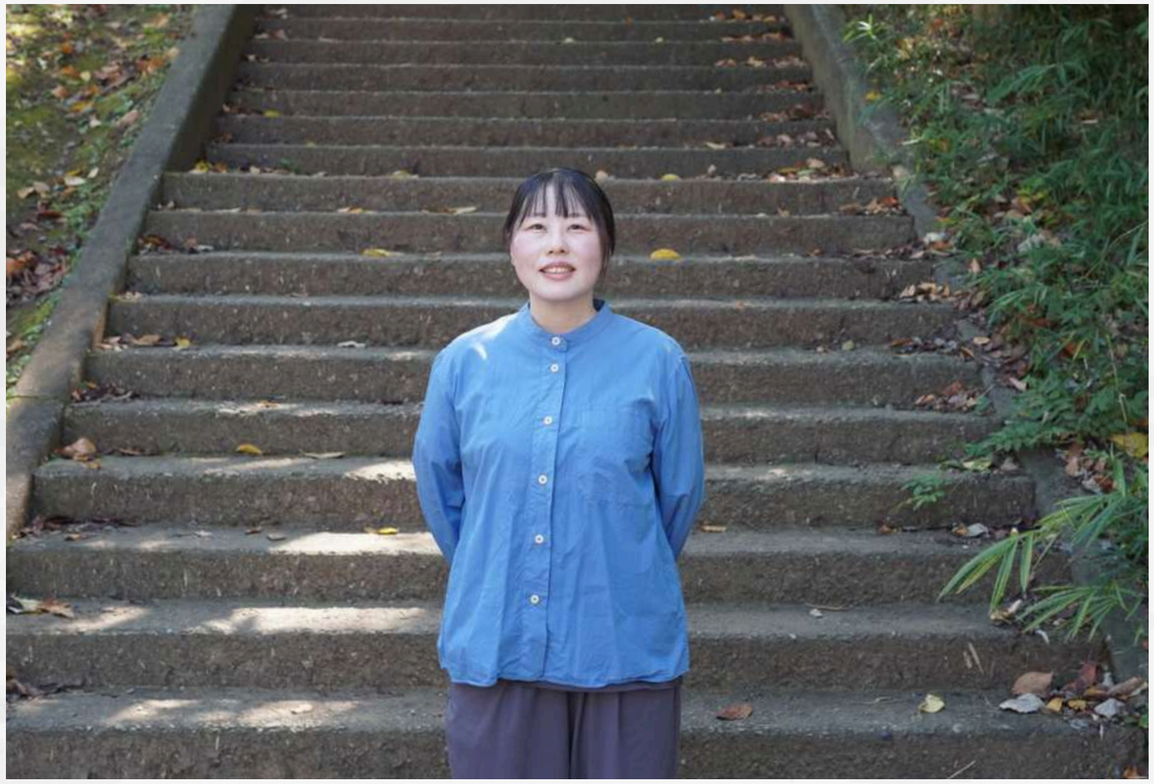


吉高 湧　副代表・理事
２０１７年入職
社会福祉士

ほっとポットの２０周年という節目に立ち会えることを、心から嬉しく思います。日頃から当法人を支えてくださる皆様に、心より感謝申し上げます。

副代表として７年間、法人運営に携わる中で、多くの方々と出会い、さまざまな人生に触れてきました。時に厳しい社会の現実に直面しながらも、一人ひとりが自分らしい人生を取り戻していく姿に、活動の意義と希望を感じています。

これまでの歩みを胸に刻み、その意義と希望を紡ぐ一員として、これからもほっとポットで活動を続けていきます。



仲谷 もも　事務局長・理事
２００９年入職
社会福祉士

多くの人が、生きることや生活に苦労し、当たり前の権利すら保障されていない現実を知ったのは、ほっとポットで働いたからです。

怒りや悲しみ、絶望に心が折れそうになることもありました。それでも歩んでこられたのは、仲間や支えてくださる皆様、そしてほっとポットを選び、相談してくださった方々のおかげです。

２０周年を迎え、これまでの出会いと支えに感謝し、これからもソーシャルワーカーとして成長していきたいと思います。

01 私のトリクミ
子育て世帯との関りをスタート

フードパントリーでは、食を通じた関わりをきっかけに、岩槻区にあるほっとポットのことをより多くの方に知っていただき、困りごとを抱える方が安心して相談できる支援の入り口を広げていきたいと考えています。誰もが孤立することなく、必要な支援につながれる地域を目指して取り組んでいきます。


食品を選らんでいただく様子

02 私のトリクミ
成年後見事業の展開

認知症や障害を理由に不安を抱える方でも、自分らしい生活を送れるようにと始めた成年後見事業を通して、一人ひとりの意思や権利を尊重し、暮らしや財産を守るとともに、誰もが安心して地域で暮らし続けられるよう、支援の幅を広げていきます。


買い物計画を立てる様子



加藤 響

2020年入職
社会福祉士

実習生として関わり始めた当時は学生として法人や利用者様のことを学ぶ立場であった自分が、約8年半経った今では法人の理事で障害福祉サービス事業の管理者をしているという点で、非常に貴重な経験をさせて頂いていると思いつつ、とても激動の日々であったと振り返ると思います。

ここまでこれたのは日頃より当法人の活動を支えてくださっている皆様、一緒に働いている職員、ほっとポットを選んで下さる利用者様のおかげです。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

03 私のトリクミ
障壁を取り除き、らしさを支える

本人の努力だけを困難の解決手段とるのではなく、暮らしにくさを生み出す環境や社会の障壁に目を向け、それらを取り除いていく視点こそが重要だと考えています。ほっとポットのグループホーム管理者として、一人ひとりの意思や生活のあり方を尊重し、安心して自分らしく暮らし続けられる環境づくりに取り組んでいます。



一緒にお皿洗い の様子



石川 祥

2019年入職
精神保健福祉士

法人設立20年を迎え、これまで多くの方々と関わりながら歩んでこられたことを嬉しく思います。

私は、貧困現場への支援についての興味からこの法人へ入職しました。様々な業務に携わる中で一人一人の生活や人生に向き合う貴重な経験を積むことができました。支援を通して多くの方から学ばせて頂き、自分自身の成長の機会を得ることができたと感じています。

これまでの経験を糧に、これからも地域の中で必要とされる支援を模索しながら、一歩ずつ取り組んでいきたいと思います。

04 私のトリクミ
住まいを失った方のもとへ駆けつける

地域生活サポートホーム事業を担当し、住まいを失い、人生の大きな危機に直面した方々への支援を行っています。住まいの確保に留まらず、一人ひとりの思いやこれまでの歩みを尊重し、本人の意思に寄り添いながら、社会資源や人との繋がりを再び築いていくことを大切にしています。



利用者と面談 の様子



清水 元気
２０２２年入職
社会福祉士・精神保健福祉士

ほっとポットが２０周年を迎えるにあたり、その一員として関わらせていただいていることを、心から光栄に思います。
住まいを失うという切迫した状況、利用者の表情、ほっとポットで働くまでは知ることのなかった支援の現場が持つ厳しさを日々痛感させられています。
一方で、嬉しいことや成長を感じる瞬間も沢山あります。転居に立ち会った時、食事を共にした時、涙を流しながら相談してくれた時などは、信頼関係が築かれていく喜びと支援に携わることの大切さを感じました。



佐々木 美穂
２０２３年入職
介護福祉士

ほっとポットでグループホームの職員として働けることをうれしく思います。利用者さんは一人一人異なる背景や困難を抱えています。だからこそ、ほっとポットが２０年間大切にしてきた、一人一人の思いや意思を尊重する姿勢をこれからも大切にしていきます。
日々支えてくださる皆様への感謝の気持ちを胸に、本人の言葉を丁寧に受け止め、共に考え、職員同士が支え合う。そんなほっとポットらしい温かさを、これからも次の世代へ引き継いでいきたいと思います。

05 私のトリクミ
孤立を防ぐ、ほっとサロンの再開

2020年に拡大したコロナウイルスの影響によりできていなかった公民館でのサロン活動を再開しました。参加される方が楽しみ、活き活きと自分らしさを表現でき、ほっとポットとの繋がりを気軽に感じることのできる「場」を作り続けたいを思います。



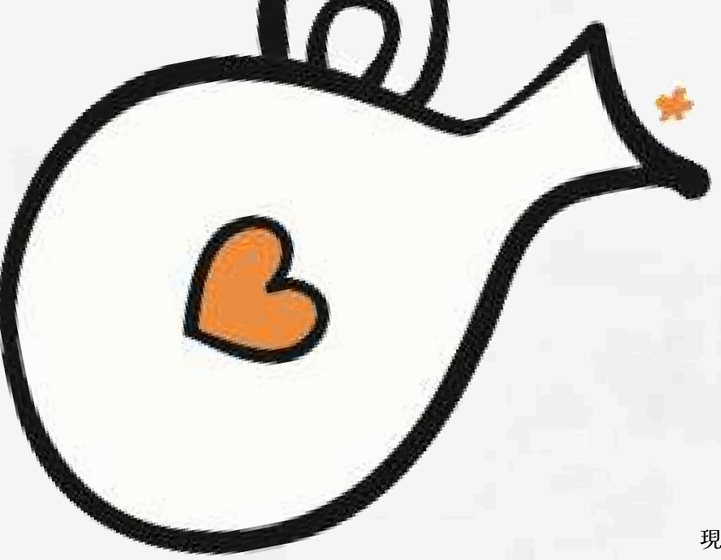
参加者と調理 の様子

06 私のトリクミ
自分らしさを一緒に考える

グループホームのサービス管理責任者として、利用者一人ひとりの思いや希望を丁寧に受け止め、自分らしい暮らしや生きがいを一緒に探しています。日々の生活の中から本人の望む姿や目標を見つけ、その実現に向けた道筋を共に考えるとともに、自分らしい人生を主体的に歩んでいけるよう支援しています。



元旦にみんなで買い物に の様子



ざっくり NPO法人 ほっとポット 20年の足跡

2007年4月

戸建て物件を活用、ホームレス状態の方へ住居を提供する「地域生活サポートホーム事業」を開始する。



2006年10月



2004年3月より、コーヒーや味噌汁をポットに入れてホームレス状態にある方々のもとを訪問するボランティア活動「ほっとポット」をスタート。活動当初は任意団体だったが、2006年にNPO法人の認証を受ける。

2008年3月

月に1度の食事会「ほっとサロン事業」を開始する。



2007年7月



岩槻区内に事務所を開設する(旧宮澤宅)。創設当初のスタッフ3名。

2008年9月

現在の岩槻区太田の事務所に移転する。



2009年8月



罪を犯したホームレス状態にある方へ住居を提供する「緊急一時シェルター事業」を開始する。

2010年4月



「人づくり事業」として実習生の受け入れを開始する。

2011年5月

宮澤進が代表理事に就任。同年、独立型社会福祉士として名簿登録を行う。



2012年



障害を背景にホームレス状態となった方への支援の選択肢を広げるため、「障害福祉サービス事業」を開始。共同生活援助を開始する。

2016年

高齢・障害などの理由から、判断能力に不安のある方を支える「成年後見事業」の活動を促進する。



2019年10月

職員数が14人となり、過去最多に。



2021年



6月に子育て世帯へ食品などを配布する「フードパントリー」を開始する。12月にホームレス状態にある方々のもとを訪問する活動を「ほっとリーチ」として再開する。



2023年11月

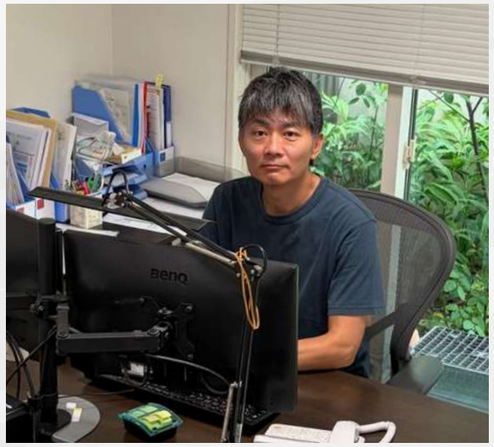
ホームページをリニューアルする。



支えてくださる方々からのメッセージ

新井山税理士事務所

新井山 靖 様



２０周年おめでとうございます。
平成２１年度よりほっとポットさんの会計顧問に従事することになり、私との関係も１７年が経過したのでしょうか。時の経過は本当に早いものですね。私自身も平成２０年に開業しましたので、従事開始時点は駆け出しの時期。お互い事業展開をされ、いろいろな苦労を乗り越え今に至っているのは感慨深いです。
今後も地域のために貢献してください。心より応援します！

仲里建良法律事務所

仲里 建良 様



２０周年、もう既にそんなに時間が経過したのか、という思いでおります。
２０１３年にほっとポットが作ったリーフレットが私の手許にあります。「見殺し、という罪を、私たちに犯させないでほしい。」大きく書かれたこの文字は、今も変わらずほっとポットの理念に息づいていると考えます。
これからもこの言葉を胸に、多くの人のための団体として活動していくことを期待しています。

斎藤社労士事務所

斉藤 純也 様



このたびは、法人設立２０周年、誠におめでとうございます。
労務管理や社会保険の手続きなどを通じて、法人の運営のお手伝いをさせていただいております。皆さまが積み重ねてこられた２０年の歩みに、心より敬意を表します。
これからも安心して働ける職場づくりと、法人のさらなる発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。今後とも末永いお付き合いのほど、よろしくお願い申し上げます。

山田 玲香 様
（旧姓・富松）

設立２０周年おめでとうございます。設立当初は宮澤さんの家兼事務所でがむしゃらに活動していました。とても懐かしいです。私の価値観の斜め上を行く方との出逢い、生活困窮状態におかれた方をとりまく環境の壮絶さ、とにかく驚きの連続でした。
ほっとポットに辿りついた方が、心からほっとできる暮らしを取り戻し、自分らしい生活が営めるようになることを心から願っております。



明治学院大学
社会学部社会福祉学科 教授

金子 充 様



ほっとポットの設立当時は、路上・野宿で暮らす方々が全国に２万人もいた時代でした。生活保護利用者に対するバッシングが強まり、多くの偏見・抑圧が当事者と支援の現場を襲いました。なぜ最も弱い状況にある人々が排除され、またその支援者まで虐げられなければならないのか、憤慨の連続でした。現在も不可視化された貧困と社会のスティグマと闘いつづける法人職員たちを誇りに思います。

岐阜協立大学
経済学部公共政策学科 教授

高木 博史 様



約２０年前、現在も監事をされている当時、立正大学の金子充先生に声をかけて頂き、ホームレス支援の勉強会に参加したのがきっかけで、現在では、最古参の外部理事となってしまいました。貧困ビジネスの疑いをかけられたり、運営路線の違いがあったり紆余曲折もありましたが、社会福祉士事務所として愚直に生存権保障の実践を追求してきた結果であり、これからも応援していきたいと思っています。

２０th ANNIVERSARY

ともに歩んだ20年、そしてこれからも

池田 勇太　様

２０１５年～２０２０年



法人設立２０周年おめでとうございます。私はほっとポットに5年在籍し、主に地域生活サポートホーム事業を担当していました。相談者・サポートホーム入居者との関わりの中で得た人としての成長は、今の私自身の礎にもなっています。住居喪失状態は人の尊厳を脅かす最たるものの１つです。生存権保障の理念をもとに、今後も必要とする方々に手を差し伸べ続ける法人であっていただければと思います。

小谷野 和悟　様

２０１０年～２０１３年



ほっとポットで過ごした時間は、私にとって福祉の仕事の原点ともいえる大切な経験でした。利用者の方々との関わりや、仲間と悩みながら支援について考えた日々は、今でも自分の中に残っています。現在は就労継続支援Ｂ型とグループホームの運営に携わっていますが、あの頃の経験が今の自分の支援や事業運営につながっていると感じます。２０周年、本当におめでとうございます。これからも多くの人にとって大切な場所であり続けてください。

ともに歩んだ仲間からのメッセージ

佐々木 愛　様

２０１９年～２０２２年



ほっとポットは「個人であること」を大切にしている場所だった。しかし同時に、互いの出来事や価値観を共有し合う空気があった。個人であることを大切にしながら、積極的に新たな関係を築くこと。それは職員同士だけではなく、団体として関わる人たちへの向き合い方も同じであった。この関わりへの姿勢が、今もなお私のなかにあるように思う。２０周年おめでとうございます。

篠田 麻友　様

２０１３年～２０１９年

この度は２０周年、誠におめでとうございます。私がほっとポットにお電話したのは、今から１３年前、まだ学生だった頃です。利用者様と一緒に食べたり、買い物をしたり、ゆっくりお話をしたり。そんな何気ない時間の中で、その方の人生に触れさせていただく大切さを学びました。あの頃の経験は、１３年経った今も私の支援の原点です。職員の皆様、御法人で関わらせて頂いた皆様に心から感謝しています。

林田 翔太　様

２０１３年～２０２６年



設立２０周年、誠におめでとうございます。

私は事務局から始まり、ほぼ全ての事業を渡り歩き、自立生活援助事業の立ち上げまで、さまざまな経験をさせていただきました。

今年３月で退職しましたが、ここで得た経験とご縁は今も大切な財産です。これからも地域の中で、必要とする方々に寄り添う存在であり続けることを願っています。

これかも陰ながら応援しております。

中野 綾香　様

２００８年～２０１７年



ほっとポットと私の出会いは２００８年。リーマンショック、東日本大震災、法人内の大きな変革等…息切れするような忙しさも、職員同士で笑いあったことも、かけがえのない時間でした。

私は１０年ほどで退職しましたが、今もなお走り続けている職員の皆様には尊敬の念が絶えません。現在も使われているロゴは、何を隠そう私が描いたもの。３つの花には、志を共に法人を創設した３人への思いを込めています。

少しずつ形は変わっても、「生きる」を支える支援の真髄は変わらないでしょう。私はこれからも、ほっとポットの歩みを信じ、応援しています。



２０th　ANNIVERSARY

ともに歩んだ20年、そしてこれからも

本田 優斗　様

２０２１年～２０２６年



法人設立２０周年、心よりお祝い申し上げます。ほっとポットでの実習及び勤務では、厳しい状況にある方々に真摯に向き合う皆様の姿から多くのことを学ばせていただきました。あの場所で共に過ごせた時間は、私にとってかけがえのない財産です。これからも当事者の方々に寄り添い続ける法人でありますよう、今後のご発展を心より応援しております。

大熊 裕美子　様

２０１３年～２０２２年

ほっとポット２０周年おめでとうございます。

私は事務局の専従職員として採用されたため、利用者さんへの直接的な支援に携わることはありませんでしたが、事務所で仕事を手伝ってくださる方や、毎月事務所に足を運んでくださる方など、多くの方々との出逢いがありました。

退職して数年が経った今でも、街中で声をかけていただくことがあり、当時のつながりを嬉しく感じています。

多くの方々を支える職員の皆さんを事務局から微力ながら応援する日々。熱い思いをもって支援に取り組む姿から学ぶことも多く、私自身も成長できたことに心から感謝しています。

ほっとポットが３０周年、４０周年へと、ますます発展されますことを心よりお祈り申し上げます。



石鍋 千紘　様

２０１５年～２０１８年



設立２０周年、おめでとうございます。大学時代、グループホームの世話人として働き、支援とは何か、人とどう関わるかをほっとポットで学びました。私のことを真剣に考え、支えてくださった職員の皆さまに心から感謝しています。写真の専門学校時代にご協力いただいた作品は、今も私の宝物です。またお手伝いできる機会がありましたら、ぜひお声をかけてください。喜んで飛んでいきます。

堀井 総一郎　様

２０１８年～２０２２年



グループホームでの世話人業務を通して障害のある方の生活に触れ、障害とはなにか、支援とはなにか、生きるってなんだろう。などなど、多くのことを感じ、学ぶ機会が与えられました。

現在は就労移行支援という形で障害福祉に従事しています。ほっとポットでの経験が私の基盤となり大切なものとして活きています。道は違えど障害の有る無いにかかわらず、誰でも安心して生活できる社会を目指し続けていきたいと思います。

ともに歩んだ仲間からのメッセージ

WITH　GRATITUDE

みなさまへの、感謝の想いを込めて

この20年、法人の歩みは、ここにメッセージを寄せてくださった皆さまをはじめ、多くの方々に支えられてきました。
改めて、日々の活動を支えてくださる方、会員となって見守ってくださる方、さまざまな形で力を貸してくださる方、
そして、これまで出逢い、関わってくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。
本誌ではご紹介しきれなかった方々も含め、一つひとつの出逢いと支えが、今日の「ほっとポット」につながっています。
これからも皆さまとのご縁を大切に、ともに歩んでいければ幸いです。

特定非営利活動法人
ほっとポット

NPO法人 ほっとポット



2026年10月発行